

春・秋季大会県予選参加のための留意点

1. 大会運営について

- ① 小雨決行、雨天順延（各会場で予備日が違うので連絡を密にする）
原則として、第1試合のチームは雨天の場合でも球場に来ること。
- ② 球場への入場他について
 - ① 第1試合は試合開始予定時刻の1時間前とする。第2試合目以降は、それ以前の試合経過によって早まる場合があるので注意のこと。
 - ② 球場に到着後、責任教師は直ちに本部へその旨を報告する。
 - ③ 第1試合のチームは試合開始予定時刻の1時間前からウォーミングアップができる。但し、両チームが揃えばそれ以前に始めることもありうる。
 - ④ 第1試合は開始予定時刻40分前、第2試合は第1試合の5回終了時に、攻守の決定及びメンバー交換を責任教師、主将同席にて行なうので、予め準備しておくこと。
- ③ 登録変更について
 - ① 選手については、準決勝の試合開始予定時刻の1時間前まで変更を認める。その場合は正規の登録変更用紙（春秋大会は様式Ⅳ－1）を用い、校長職印の押印を必要とする。提出先は、当該球場の本部とする。部員登録未済者の場合は部員追加登録（様式Ⅱ）を県高野連に提出した上で、当該球場の本部に写しを持参すること。春・秋季大会については、背番号の変更も可。
 - ② 責任教師、監督、記録員については全試合変更を認めるので、変更届を試合開始予定時刻の1時間前までに当該球場本部へ提出すること。変更届の様式については責任教師、監督は様式Ⅴ、記録員は様式Ⅳ－1（春秋大会）により、校長職印の押印を必要とする。責任教師、監督の変更届は県高野連にも提出すること。
- ④ 得点差コールドゲーム、継続試合及びタイブレーク制度について
 - ① コールドゲームについて
 - ・点差による場合は、決勝戦を除き4回半又は5回以降10点差及び6回半又は7回以降7点差になったとき。
 - ② 継続試合を採用する（高校野球特別規則22参照）
 - ③ タイブレーク制度を採用する（高校野球特別規則23参照）
- ⑤ 春・秋季大会県予選では、試合に必要な諸係は当事校が担当するので、そのことについては本部の指示に従う。
- ⑥ 春・秋季大会中は練習試合を行なってもかまわない。

2. 試合について

- ① ベンチサイドは、組み合わせ番号の若い番号を1塁側とする。
- ② ベンチ入り人数は、責任教師、監督、記録員各1名、登録選手20名合計23名とする。

但し、秋季大会においての記録員は、ベンチ入り人数が少ないチーム（11名以内）に限り3年生部員でもかまわない。

- ③ 服装については、責任教師は平服を原則とするが、自校ユニフォームでもよい。監督、選手は、自校ユニフォームとする。記録員は、自校制服、トレーニングウェア、背番号のない試合用ユニフォームのいずれかとする。グラウンド内に入る時、グラウンドコートは原則脱ぐこと。（投手はこの限りではない）
- ④ 試合前のシートノックは原則として10分間とするが、天候等で変更の場合もある。試合前ノックの際の補助生徒は5人まで認めるが、ノックを受けることはできない。自チームノック時のブルペン捕手は可。服装は自校ユニフォーム又はいわゆる練習用ユニフォームで、靴はスパイク又はアップシューズとする。ツートンカラー、Tシャツ、氏名の入ったユニフォーム、グラウンドコートの着用は不可。補助員はシートノックの時のみ参加できる。

なお、女子部員の補助員については以下の通りとする。

〈試合前の女子部員の活動について〉

- ① 試合前のシートノックのボール渡し（内野ノック、外野ノック）を可とする。
- ② 通常の部活動でノック時の補助を行なっている女子部員に限る。
- ③ ヘルメットを着用すること。
- ④ 服装は自校ユニフォーム、練習用ユニフォーム（白）、トレーニングウェア（体育着）のいずれかとする。
- ⑤ 大会前に本人の希望、保護者の承諾を得ること。
- ⑥ シートノック時の補助員、ベースコーチはヘルメットを着用すること。
- ⑦ トスバッティングをスタンドに向って行なわないこと。
- ⑧ 監督、ノッカーは、自校のユニフォーム、スパイクを着用すること。
ノッカーは、各校野球部顧問、連盟に申し出たコーチまたは選手（女子部員を含む）とする。

なお、女子部員がノックを行う場合は通常の部活でノックを行っていることと本人の希望、保護者の承諾を前提とする。

- ⑧ 対戦当事校の関係者は、その試合中は必ずスタンドにて観戦のこと。また、スタンドからのメモ、試合中のベンチ裏への出入り等絶対ない様にフェアプレイの精神を守ること。（厳守）
- ⑨ 試合開始後は、責任教師、監督、記録員はベンチを離れないことを原則とする。また、試合に直接関わっていない選手も同様である。
- ⑩ 審判員への申し出は、主将か問題の当事者及び伝令に限る。（厳守）
- ⑪ 試合中は、携帯電話やラジオ等の使用は厳禁。
- ⑫ 試合の進行をスピーディーにするよう行動すること。
 - ① 攻守交代は迅速に行なうこと。攻撃側の第一打者とベースコーチ、次打者は、ミーティングには加わらず速やかに所定の位置につくこと。
 - ② 投手は投手板に軸足を触れている状態で、捕手からのサインを受けること。捕手のブロックサインは禁止。

- ㉔ 捕手は投手へ返球したり、野手に声をかけるため、1球毎にホームプレートの前に出ないこと。
- ㉕ 打者はみだりにバッタースボックスを出ないこと。
- ㉖ 外野飛球によるアウトの際には、ボール回しを行なわないこと。
- ㉗ 試合中、靴紐の結び直し等でみだりにタイムをとることのないよう、ベンチにいる間に点検しておくこと。
- ㉘ 試合中選手をベンチに呼び戻さないこと。攻撃の場合も伝令を使うこと。(厳 守)
- ㉙ 制限がないからといって、むやみにバッテリートイムをとらないこと。
- ㉚ 次打者は必ずネクストバッタースボックスに入り、飛球が来たら逃げられる姿勢で待機すること。またサークル内で投球時にタイミングをとる行為や素振りはしないこと。投手が次打者の場合も、必ず本人が待機すること。
- ㉛ 投球に対しては故意に当たりにいく行為はしないこと。
- ㉜ 打者走者はスリーフットレーン内(特に後半部分は)を走ること。
- ㉝ 盗塁の場合、打者が走者の盗塁を助けるために捕手を妨害するような行為(ボックスから踏み出したり、遅らせてのスイング等)をしないこと。
- ㉞ 試合中投球練習場でピッチング練習をする場合には、守備及び試合進行の妨げにならないよう留意すること。
- ㉟ ビデオ撮影をする場合には、バックネット裏からとし、1・3塁側スタンドからは避けること。保護者会等に極力連絡しておくこと。
- ㊱ 打者や走者、ベースコーチ等が捕手のサインを見る行為、球種やコースを知らせる行為がない様、高校野球の精神に基づいてプレーすること。
- ㊲ 1人の投手が投球できる総数は1週間500球以内とする。
- ㊳ 投手が捕手のサインを見た後、投球関連動作に入れば、両チームのベンチ及びベースコーチからの声は控えること。

3. 用具について

- ① ユニフォーム、アンダーシャツ、ストッキング、足首保護ガード等の商標は取り除いておくこと。特にアンダーシャツとストッキングに注意のこと。また、グラウンドコートやシューズの規定(選手名他)に注意のこと。
- ② 金属バットは日本高野連の認可したものに限る。(－Nマーク)
- ③ リング、鉄棒をベンチ内に持ち込まないこと。
- ④ メガホンのベンチへの持ち込みは、2個以内とする。
- ⑤ テーピング、足首保護ガード、サングラス使用の場合はメンバー交換の際に本部へ申し出ること。テーピングの色はベージュとする。チタンテープ、スパイラルテープ等の使用は禁止。
なお、レッグガードやエルボーガードの色の規定をよく見ておくこと。
- ⑥ ラダー等試合に関係のない物をベンチに持ち込まないこと。
- ⑦ サングラスの使用は守備時のみとする。

- ⑧ グラウンドコートは原則 2 種類までとする。
- ⑨ スパイクのホワイト、ブラック混在は可とする。

4. マナーについて

- ① ベースコーチはボックスを離れないこと。また、セーフの発声やジェスチャ等審判類似行為をしないこと。
- ② 個人を罵倒するような汚い野次を慎むこと。
- ③ ファンにせがまれても、個人的にサインをすることを禁止する。
- ④ ホームランを打った打者を迎える時でも、試合を遅滞させない、ベンチから出ない等試合上の諸規則を遵守すること。
- ⑤ ユニフォームについてベルトが見えずにだぶついた着方をしないように注意する。
- ⑥ 試合上の挨拶は、原則として開始時と終了時の審判の発声によって行うものだけでよい。例えば、打者がバッタースボックスに入る毎に、ヘルメットを脱いで審判員に挨拶をしたり、終了時の挨拶の後、相手校ベンチへ出向いて挨拶をする必要はない。またホームプレート上での礼はテンポ良く 1 回とすること。